

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	Excel演習			宮 秀光		
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

現代社会のビジネスにおいて必須となるExcelのスキルを身につける。

Excel表計算処理技能認定試験に向けた学習。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエンテーション	授業の目的、進め方。検定の概要、受験の目的。Office365登録。
2	Excel3級対策①	Excelの起動と終了、データの入力、合計の計算、グラフの作成と印刷
3	Excel3級対策②	ワークシートの編集、便利なデータ入力の方法、平均の計算（AVERAGE関数）
4	Excel3級対策③	セル番地の絶対参照、最大・最小（MAX・MIN関数）、データのカウント（COUNT・COUNTA関数）
5	Excel3級対策④	グラフ（基本）棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ
6	Excel3級対策⑤	グラフ（応用）3-Dグラフ、複合グラフ、ドーナツグラフ、レーダー、散布図
7	Excel3級対策⑥	データベース入門、オートコンプリート機能、データの並び替え、検索、置換、抽出
8	Excel3級対策⑦	順位づけと大きい値・小さい値（RANK.EQ、LARGE、SMALL関数）列の検索（VLOOKUP関数）
9	Excel3級対策⑧	Excel表計算処理技能認定試験にむけた練習問題
10	Excel3級対策⑨	Excel表計算処理技能認定試験にむけた練習問題
11	Excel3級対策⑩	Excel表計算処理技能認定試験にむけた練習問題
12	Excel3級復習①	Excel表計算処理技能認定試験の振り返り
13	Excel3級復習②	Excel表計算処理技能認定試験の練習問題復習
14	Excel3級復習⑤	Excel表計算処理技能認定試験の練習問題復習
15	前期考査	提出物の確認・提出

☐ 到達目標

Excel表計算処理技能認定試験合格（7/19）

☐ 成績評価の方法・基準

課題提出40% 出席状況・授業態度60%

資格試験合格時は加点とする

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	ビジネスコミュニケーションⅠ（キャリア基礎）		路 暢			
授業の種類	授業の方法（講義・演習／実験・実習・実技）		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

☐ 授業科目の概要

- ・自分自身を理解し、将来像を考えることで、今、そしてこれから取り組むべきことを明確にする。
その内容に沿ったかたちで講義を進めて、対外コミュニケーションスキルを上げ、後期の業界EXPO、本格的な就職活動につなげる。
- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」を完成させる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエン、自己紹介	半期の流れの説明及び、学生の自己紹介を行う。
2	学校を知る・学科を知る	学校の特長や学科の各授業が、どういった資格につながり、卒業後、どうなっていくための授業なのか、2年間、もしくは3年間の学びについて紹介する。
3	コミュニケーションゲーム（他人から見た自分）	グループメイトが互いに自分の、自分が思っている自分のイメージの違いを認識し、これがどういった自己PR（長所）の作成に役立てる。「You are シート」を作成し、他己紹介を行い、スピーチトレーニングの要素を含める。
4	自己理解	マイカンパニーの概要に触れた後冊子のP.7～P.13の個人ワークを行う。その後、ペアになりお互いのことを発表。「話して気づいたこと」「聞いて心が動いたこと」をP.14のシートに記入。その内容も踏まえつつ、個人ワークで「自分史シート」「I am シート」を作成し、自身の強みを知り、なぜそれが身に付いたかをさらに掘り下げて考える。
5	キャリアプランニング	「将来のライフロード」「目標設定シート」を作成し、自身の目標と目標達成のために必要なものの、今からできることを考える。そこで出てくるのが想定されるものが、第5回以降の授業で学ぶ内容とリンクしていく。
6	対外コミュニケーション①	対外コミュニケーションで必要となることを、例を挙げて解説。ロールプレイングを含めても良い。（例：「会社説明会に参加する」⇒入口でコートは脱ぐ、説明会の聞き方、メモは、質問は、終了後は、など）
7	対外コミュニケーション②	対外コミュニケーションで必要となる、採用担当者への文章の書き方やメール作成の仕方を考える。
8	<自己分析①> 自己PRにつなげる	前回までに取り組んだことを活かして、「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」を考える。
9	<自己分析②> 自己PRを作成する	前回までに取り組んだことを活かして、「自己PR」を完成させる。
10	<自己分析③> 人の自己PRを聞いてみるⅠ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
11	<自己分析④> 人の自己PRを聞いてみるⅡ	前回までに作成した「自己PR」「学生生活で頑張ったこと」「長所・短所」等を、数名のグループを作って一人ずつ発表する。人からの意見を聞くことで新たな気づきがあったり、参考にできる部分は参考にする。また、発言を聞いている人は、発言者に必ず質問する。（そのため話をしっかり聞き、メモを取る。）
12	質問力を高める	他学科・他部署の先生が時間を区切り、あるテーマで話をする。学生はチームで質問を考え、代表者が挙手の上、質問をしていく。学生は、質問をするためしっかり話を聞き、メモを取って臨む。（人と話を変えて、複数講師も可。）
13	業界研究「職業・職種を知る」	自身が目指す（興味のある）業界・職種（人によっては具体的な企業）について調査し、各自でまとめて発表する。
14	身だしなみ講座＆就職情報サイト登録	これから本格的に就職活動を行う上で必要となる「身だしなみ」について学ぶ。（挨拶や表情についても触れる）さらにマイナビ、リクナビ等の就職情報サイトの登録を行い、後期に向けて活動がスムーズに進められるようにする。
15	前期試験	昨年度の業界EXPO参加票をそのまま使って、自己PR欄を完成させる。いよいよ後期には業界EXPOがある＝（就職活動が本格的に始まる）ことの動機付けにする。

☐ 到達目標

- ・「過去の自分」をもとにした「自己PR」は完成させる。
- ・就職活動の準備段階で必要となる対外コミュニケーションスキルを身に付け、スムーズに業界EXPOに参加できるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

- ・業界EXPO参加票の最後の行まで記入できていれば100点。
そこから、出欠状況、授業に取り組む姿勢等を考慮し、学科判断で減点する。

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		アルゴリズム I		高野 ひとみ		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

プログラムの基礎となるアルゴリズムを理解し、問題解決と効率の良いフローチャートを作成する
「データ構造」および「アルゴリズム」を学習することで、プログラミング能力を高める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	アルゴリズムの基本-1	アルゴリズムとプログラムの関係（良いアルゴリズム）
2	アルゴリズムの基本-2	フローチャートの記述方法（データの流れを考える）
3	アルゴリズムの基本-3	コンピューターの仕組みと変数について
4	変数とフローチャート-1	プログラムと変数
5	変数とフローチャート-2	データとメモリと変数の関係
6	フローチャートと疑似言語-1	順次処理フローチャート作成
7	フローチャートと疑似言語-2	分岐処理フローチャートの理解
8	フローチャートと疑似言語-3	繰返し処理フローチャートの理解
9	フローチャートのまとめ	フローチャートのまとめ（中間試験）
10	データ構造と疑似言語-1	配列データの理解
11	データ構造と疑似言語-2	線形探索法による疑似言語とプログラム
12	データ構造と疑似言語-3	二分探索法による疑似言語とプログラム
13	データ構造と疑似言語-4	ハッシュ探索法による疑似言語とプログラム
14	アルゴリズムのまとめ	疑似言語演習
15	前期考査	

☐ 到達目標

問題解決と効率の良いアルゴリズムを考える

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	Pythonプログラミング I		高野 ひとみ		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

Python言語のプログラミング基礎を身につけるために、Python言語の特徴とデータ構造を理解する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	Python言語の特徴	Python言語の特徴と作成方法
2	プログラムの基本操作	アルゴリズムとプログラミングの関係について
3	Pythonを使う時のルール	Pythonの起動とプログラミング演習
4	基本データの種類1	プログラム構成―1（変数のプログラム演習）
5	基本データの種類2	プログラム構成―2（入力と出力のプログラム演習）
6	制御文のルール1	プログラム構成―3（順次処理と演算のプログラム演習）
7	制御文のルール2	プログラム構成―4（繰返し・条件分岐の演習）
8	制御文のルール3	プログラム構成―5（繰返し・条件分岐の演習）
9	制御文のルール4	プログラム構成―6（繰返し・条件分岐の演習）
10	制御文のルール5	プログラム構成―7（繰返し・条件分岐の演習）
11	データの集まり1	データ構造―1（配列・リストの演習）
12	データの集まり2	データ構造―2（タプルの演習）
13	データの集まり3	データ構造―3（辞書の演習）
14	実技試験	データ構造プログラミングのまとめ
15	後期考査	

☐ 到達目標

Python言語でアルゴリズムの基本形をプログラミングできる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		Javaプログラミング I		高野 ひとみ		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

Java言語によるプログラミング実習を行い、プログラミングの基礎を身に着ける
アルゴリズムの基本形をプログラミングできる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	Java言語の特徴	Java言語によるプログラムの構成を確認する
2	Eclipseの使い方	Eclipseを使って、文字表示するプログラム演習
3	データの扱い	変数を理解し、算術演算子と式のプログラム演習
4	データ型の種類	型変換と文字列のプログラム演習
5	アルゴリズムとプログラミング	基本アルゴリズムをプログラミンする
6	制御文のルール 1	条件分岐・論理演算・優先順位のプログラム演習
7	制御文のルール 2	繰返し処理の構文例のプログラム演習
8	プログラム演習 1	制御文の演習問題にトライ
9	プログラム演習 2	制御文の演習問題にトライ（中間試験）
10	データ構造 1	配列処理の構文例
11	データ構造 2	1次元配列処理の演習
12	データ構造 3	2次元配列処理の演習
13	メソッド 1	メソッド宣言の仕方と使い方を学ぶ
14	実技試験	プログラミングのまとめ
15	前期考査	

☐ 到達目標

JAVA言語でアルゴリズムの基本形をプログラミングできる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		情報リテラシーI		美崎 弘子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

大手システム開発会社より独立後、IT/AIプロジェクトの全体に関わりながら、エンジニア育成を行っています。

☐ 授業科目の概要

AIやIT技術が世の中の問題・課題をどう解決し、我々が便利なサービスとして利用しているのか、仕組みや技術を学習する。

数学問題（中学生レベル～）を実施したり、文科省の情報系YouTube動画も取り入れる。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	パソコンやクラウドサービスの操作 実践	・PC操作（拡張子、ファイル保存、スクショ、PDF作成） ・Googleドライブ、ワークスペース、Classroom
2	自然言語処理、GPT、LLM	・PC操作2（ショートカット、コマンドプロンプト） ・数学問題 ・自然言語処理、Word2Vec、形態素解析、GPT、LLM
3	コンピューターサイエンス、AI基礎	・数学問題（小テスト） ・AI問題（小テスト） ・ネットワーク、データベース（文科省YouTube動画）
4	コンピューターサイエンス、AI基礎	・数学問題（小テスト） ・ネットワーク、データベース（文科省YouTube動画）
5	コンピューターサイエンス、AI基礎	・数学問題（小テスト） ・アンケート、オープンデータ（文科省YouTube動画） ・コマンドプロンプト
6	データ収集～分析	Googleフォームで、アンケート設計・作成・分析 ・数学問題（小テスト）
7	データ収集～分析 オープンデータ	Googleフォームで、アンケート設計・作成・分析2 ・数学問題（小テスト） ・オープンデータ
8	データ収集～分析	セミナー申し込みフォーム作成
9	動画キャプチャ、動画編集	操作動画キャプチャを取る（Snipping Tool） 動画マニュアルを動画編集ソフト（ClipChamp）を使い、作成する
10	動画編集	フリーテーマ（学校に関するもの）で動画制作・編集を行う
11	WebAPI	WebAPI（郵便番号、天気予報のデータを取得する） ・数学問題（小テスト）
12	WebAPI、GAS	WebAPI（郵便番号、天気予報のデータを取得する）2 GASを使ってみる
13	スクレイピング	Webスクレイピング実習（pythonライブラリを使用する）
14	スクレイピング	Webスクレイピング実習（pythonライブラリを使用する）2 過去の復習内容について課題を実施する
15	課題	提出した課題の、解答・解説を行う

☐ 到達目標

社会の中で、ITやAIがどのように使われているのか、

またWebシステムやアプリやAIサービスを「作る」「提供する」側の仕事について理解する。

☐ 成績評価の方法・基準

試験20% 課題60% 出席状況・授業態度20%

日々の小テストおよび最後の提出課題の点数で評価する

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	システム開発入門		井田和義		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当教員は、IT企業として創業20年となり、データベースを利用したシステム開発実務経験に基づいて、エンジニア養成に向けた授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

◎プログラムを組むのではなく、事例をもとに課題を見つけ、その解決方法を毎時間ごとに提出する。

◇データベースの構造を学び、そのデータベースを利用する方法を学ぶ。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	◎オリエンテーション ◇SQL文①	◎授業の進め方 ◎それ、本当に必要？話し合いで見える優先順位 ◇VSCodeプラグインを使用したSQL実行の仕方 ◇select
2	◎問題を見つける ◇SQL文②基本構文／条件	◎「問題発見」～身近な“ちょっと困る”を見つけよう！～ ◇VSCodeの起動および確認 ◇where ◇論理演算子（and、or）
3	◎課題解決を考える ◇SQL文③条件	◎それ、ホントの課題？～“モヤモヤ”を“ミッション”に変える！～ ◇論理演算子（and、or）の複合 ◇in
4	◎開発環境を考える ◇SQL文④条件	◎もしも〇〇を作るなら？開発環境ドラフト会議 ◇比較演算子（＝、＞、＜、＞＝、＜＝、＜＞、！＝） ◇like、nullと空
5	◎システムを企画する ◇SQL文⑤集計関数	◎アイデアをカタチに！課題を解決するシステムを正画しよう ◇order by（並び替え）◇集計関数（count、max、min、avg、sum）◇集計条件（group by、having）
6	◎利用者を考える ◇SQL文⑥結合	◎使う人のこと、ちゃんと見えてる？～“利用者視点”から考えるシステム～ ◇テーブル結合（Inner Join、Left Join、Right Join）※2つのテーブル
7	◎強みを見つける ◇SQL文⑦結合：復習	◎その企画、どこがすごい？～“強み”を見つけて魅力アップ！ ◇テーブル結合の復習
8	◎立場によって考える① ◇SQL文⑧テーブル作成	◎ユーザー×ベンダー 要件定義ロールプレイ！～立場が変われば見えることも変わる～1回目 ◇テーブル作成（create文）
9	◎立場によって考える② ◇SQL文⑨テーブル作成・削除	◎ユーザー×ベンダー 要件定義ロールプレイ！～立場が変われば見えることも変わる～2回目（入替） ◇特殊なselectの使い方とunionを組み合わせて、一括データ登録
10	◎スライド作り① ◇SQL文⑩登録・更新・削除	◎「伝えるってどういうこと？ストーリーを考えよう」～スライドづくり①：シナリオ編～ ◇登録／更新／削除
11	◎スライド作り② ◇SQL文⑪テーブル削除	◎「伝えるってどういうこと？ストーリーを考えよう」～スライドづくり②：作成編～ ◇テーブル削除（drop文） ◇副問い合わせ ◇ここまで学習したことを総復習。
12	◎前期課題テーマ設定 ◇SQL文⑫テーブル作成Ⅱ	◎自分たちで問いを立てよう！前期課題テーマの設定（講師から基礎テーマを設定します） ◇テーブルクリエイト（外部キー制約） ◇ターミナル（SSH接続）を使用したSQL実行の仕方
13	◇SQL文⑬テーブル作成Ⅲ ◎課題準備スライド作成①	◇テーブルクリエイト（自動採番） ◇トランザクション処理 ◎スライド制作①～企画の魅力を伝えるカタチにしよう
14	◇前期考查前のテスト対策 ◎課題準備スライド作成②	◇夏休み明けの復習およびテスト対策 ◎スライド制作②～最終仕上げ
15	◇前期考查 ◎課題提出	◇前期考查 ◎前期課題 最終提出＆ふりかえり

☐ 到達目標

◎現状の業務の課題を見つけ、方針を決め、解決手段を考える。

◇SQLを利用した簡易な操作（基礎）ができるようにする。

☐ 成績評価の方法・基準

①課題提出（100点）／ DB期末テスト（100点）

②欠席3回（-5点）欠席4回（-10点）欠席5回（-15点）

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	AIリテラシー I		遠藤 優一		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当教員は銀行、中堅企業での長年の現場経験を基に、JDLA主催のAIハッカソンに参戦したり、大学ではデータから価値を創出し、ビジネス課題に答え出す「AIプロデューサー」を志す学生向けの講師を務めている。こうした実務経験を活かしAIの関連授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

G検定シラバスの目標/キーワードに沿って解説。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエン、AI定義、AI分野で議論される問題	G検定試験の概要（オンライン&会場）、AI定義、AI分野で議論される問題（身体性、シンボルグレンジング問題他）
2	AIをめぐる動向	探索・推論（第1次AIブーム）、知識表現とエキスパートシステム（第2次AIブーム）
3	機械学習の概要（1/3）	機械学習（第3次AIブーム）、ディープラーニング、教師あり学習（1/2）
4	機械学習の概要（2/3）	教師あり学習（2/2）、教師なし学習、
5	機械学習の概要（3/3）	強化学習、モデルの選択・評価
6	ディープラーニングの概要	誤差逆伝播法、最適化手法、誤算関数、活性化関数、正則化
7	ディープラーニングの要素技術（1/2）	CNN、RNN
8	ディープラーニングの要素技術（2/2）	Attention、オートエンコーダ、データ拡張
9	ディープラーニングの応用例（1/4）	画像認識、転移学習・ファインチューニング
10	ディープラーニングの応用例（2/4）	自然言語処理、音声処理
11	ディープラーニングの応用例（3/4）	深層強化学習、マルチモーダル
12	ディープラーニングの応用例（4/4）	データ生成、モデルの解釈性、モデルの軽量化
13	AI社会実装に向けて	AIプロジェクトの進め方、データの収集・加工・分析・学習
14	法律・倫理	AIに関する法律と契約、AI倫理・AIガバナンス
15	期末考査	

☐ 到達目標

G検定シラバスのキーワードを習得

☐ 成績評価の方法・基準

出欠状況と期末考査で総合判断

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	AI概論I			美崎 弘子		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

大手システム開発会社より独立後、IT/AIプロジェクトの全体に関わりながら、エンジニア育成を行っています。

☐ 授業科目の概要

AIの基本的な知識を、資格試験合格を目指すことで身に着ける。

後半は試験終了するので、実践的にPCを使いAIを動かす内容に移る（機械学習のツールを使ったり生成AIも利用する）。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	AI検定、G検定、AI実装検定 概論説明	AIに関する各種試験の概要説明 G検定 第1章・第2章説明
2	G検定対策	G検定 第1章・第2章説明 「Grow with Google はじめてのAI」gaccoから登録
3	G検定対策	G検定 第3章・第4章説明 小テスト
4	G検定対策	G検定 第5章～第8章説明 小テスト
5	G検定対策	G検定 第7章～第9章説明 小テスト
6	G検定対策	G検定 第10章説明 小テスト
7	機械学習のモデルを実践	AI検定で出題される、数学の説明（順列・組み合わせ・確率） Teachable Machineを使い、機械学習のモデルを作り体験する
8	深層学習の体験	機械学習のモデルを実践する（画像、音声、ポーズ） HTMLファイル化する Tensorflow説明
9	深層学習の体験	機械学習のモデルを実践する（画像、音声、ポーズ） 2 HTMLファイル化する→提出する Tensorflow説明
10	生成AIについて触れる	生成AIを使った学習方法を体験する
11	AI基礎概念～プロジェクトの理解	AIプロジェクトについて 用語説明
12	AI基礎概念～プロジェクトの理解	システム開発とAI導入開発、それぞれのプロジェクトについて 1 課題や目的設定・AI導入検討・データ収集・前処理・導入・導入・検証・振り返り
13	AI基礎概念～プロジェクトの理解	システム開発とAI導入開発、それぞれのプロジェクトについて 2 課題や目的設定・AI導入検討・データ収集・前処理・導入・導入・検証・振り返り
14	AI基礎概念～プロジェクトの理解	「Grow with Google はじめてのAI」復習 小テスト
15	小テスト	AI概論 全体的な内容から小テスト

☐ 到達目標

AIの基本知識として、資格試験「AI検定」を1年生で
合格を目指すレベルの知識を身に着ける。

☐ 成績評価の方法・基準

試験80％ 課題00％ 出席状況・授業態度20％
日々の小テストおよび最終日のテストの点数で評価する

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	データサイエンス I			福田 徹		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

Study-AI株式会社にて日本ディープラーニング協会のE資格向け認定講座提供。その他複数の会社の経営者。大学教授として大学でAIの講義を実施。上場企業の社外役員、上場企業へのコンサルティングも行っている。

□ 授業科目の概要

データを読み解くために必要なデータサイエンスの知識を中心に、実践的なデータの見方やまとめ方、分析方法などを習得する。
データサイエンスをツールとして使えることで、社会に出て必要なデータサイエンスの基礎を学ぶ授業内容とする。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業ガイダンス	データサイエンスとは。データサイエンスでできること。教科書の紹介。
2	データサイエンスとは	ビッグデータとは。地域経済分析システム、政府の統計を利用してみる。
3	データリテラシー	データリテラシーを身に着ける
4	全体の傾向をつかむ	全体の傾向をつかむ
5	データの関係性	相関係数
6	データの可視化	グラフ表現
7	データの比較	データの分解
8	特徴で分ける	グループに分ける
9	機械的に分類	k-means法
10	データの法則	決定木モデル
11	判別問題	クロス表
12	データ予測	内挿と外挿
13	データリテラシーの活用	読む、説明、分類、法則、予測
14	振り返り	これまでの授業を振り返る
15	前期考査	テストを実施

□ 到達目標

様々なデータの可視化、分析ができる

□ 成績評価の方法・基準

課題と出席状況、授業への取り組み方で評価する

2026年度	前期	AIシステム学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	HTML			宮 秀光		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師は、IT系のweb制作職として、web制作会社、自社webメディア会社、eコマース会社など15年以上勤務し専門的観点から実習中心の授業をする。

☐ 授業科目の概要

WEB制作に必須のスキル。HTML5とCSS3を正しく理解し、実際に自身でWEB設計を考え構築する。
最終的にはお問い合わせフォームまでの制作を実装する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエンテーション	HTMLの概要、設計の方法、VSコードのログイン・運用
2	HTML5の基礎①	HTMLタグの基本と改行、見出しタグと段落
3	HTML5の基礎②	文字の装飾、画像の掲載、リンクの作成
4	CSS3の基礎①	CSSの基本、文字書式のCSS
5	CSS3の基礎②	CSSの色指定、背景のCSS
6	CSS3の基礎③	角丸、影、半透明のCSS
7	HTML5 + CSS3応用①	div要素とspan要素（ブロックレベル要素とインライン要素の理解）
8	HTML5 + CSS3応用②	回り込みのCSS、フレックスボックスを使った配置
9	HTML5 + CSS3応用③	リンクのCSS、CSSの総まとめ
10	HTML5 + CSS3実践①	表の作成、表のCSS指定、グループ化とセルの結合①
11	HTML5 + CSS3実践②	グループ化とセルの結合②、リストの作成と活用
12	HTML5 + CSS3実践③	ページレイアウトの作成
13	HTML5 + CSS3実践④	CSSファイルの活用、インラインフレームの作成
14	HTML5 + CSS3実践⑤	フォームの作成①
15	前期考査	フォームの作成②・提出

☐ 到達目標

HTML5、CSS3を理解し、フォームを作成・提出

☐ 成績評価の方法・基準

課題提出40% 出席状況・授業態度60%

2026年度	前期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	スポーツ統計学Ⅰ		金森 保智		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

コンサルタントとしての約10年を含む約30年に渡るビジネスパーソンとしてのデータ・統計の活用実践、指導実績を土台に講義を設計、実施

☐ 授業科目の概要

スポーツにおけるデータ・統計活用の事実とその目的・効果を理解し、それを一般化することを通じて、ビジネスにおけるデータ・統計活用の基本的な考え方とその基礎知識・スキルを身につける（データの取得～活用と記述統計を中心に、組み合わせと順列、期待値）

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	なぜ、スポーツをテーマに統計を学ぶのか？	授業概要とルール／字面からわかることとわからないこと／理解を深めるための手段としての身近なこと～メタファーを含むアナロジー／AI・ICT・スポーツって？／重要なのはリアリティ
2	データを利用して3選手から1人を選ぶ～仮説の設定	適切な意思決定とは？／3選手のうち誰を選択するか？／仮説として考えられること～起こりえることを考える
3	パターンの洗い出し～3選手の「並べ方」と「選び方」	どのような並べ方・選び方が考えられる？／樹形図の利用／並べ方と選び方の違い／結果のパターンを考える／順列と組み合わせ
4	「並べ方」と「選び方」を計算で求める～大きく2つのものの見方	いろいろな主パターンの考え方は大変／計算で求める方法はあまるのか？／順列の式と組み合わせの式／考え方：式のパーツとパーツごとの計算の意味／実際に計算してみる／対象が増えると並べ方・選び方はどうなる？
5	仮説の検証と判断に必要なデータ～使いやすさという視点	適切な仮説の条件／仮説の検証にデータを利用するには？／利用できる道具／どのようなデータであれば検証できるのか？／データクリーニングのもう1つの目的／データをクリーニングする
6	データを使った統計的処理・集計	クリーニング後のデータを集計する（代表値、散布度、相関係数）／得られた情報の可視化（表、ヒストグラム、折れ線グラフ、散布図）
7	データを使った判断と仮説の重要性	結論／結果からわかること、解釈できること
8	打率3割が意味することは？～打率3割の現実と将来	過去の結果としての打率3割／結果を利用したら将来を予測できる？／割合と確率との意味の違い
9	未来はどの程度正確に予測できるか？～仮説を考える	仮説が出発点／仮説の検討、材料としての過去の結果、仮説のひな形文、これまでに学んだこと／仮説を洗い出し整理する
10	仮説のブラッシュアップ～判断基準の適切さ	洗い出した仮説は適切か？／仮説が適切かどうかを考える視点／判断基準の設定
11	仮説検証のためのデータ取得	どう検証するか？／実測値を利用するため／どのようなデータを取得すればよいか～モデルの単純化とトランプの利用／データを取得する
12	取得したデータを集約・集計する～ヒット数（成功数）の一覧化	取得したデータのヒット・アウトの判定／正確に判定するには？／目視とExcel関数を利用した判定との差異／結果をどのように集約するか
13	集約データを用いた比較～打率（成功率）2割と3割の比較	集約データを集計する、集計結果から何がわかるか？、期待値というもの
14	データがあるとできること	理論は難しい、でも、データを活用することはできる／過去13回のオーバーラップ
15	期末試験	スポーツにおけるデータ・統計活用で学んだこと～セイバーメトリクスとバイオメカニクスをビジネス視点に変換する／過去13回のオーバーラップ

☐ 到達目標

スポーツにおけるデータ・統計活用を出発点に、データの基本的な集計・加工と、結果を利用した解釈・判断を適切に行える状態

☐ 成績評価の方法・基準

期末試験100%（大きく以下①～⑤の要素で評価）

①受験、②結論、③学びの活用、④論理、⑤表現

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	基本情報技術者試験対策			赤沼 大		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

□ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

IT業界で7年程の実務経験があり、開発・ネットワーク・セキュリティ・AI・DX等幅広く行なっている。
プロジェクトマネジメントやチームマネジメント、経営にも携わる経験を有している。担当教員は上位資格取得済。

□ 授業科目の概要

教材およびWeb上の問題集を利用する。ITパスポートとは異なるより技術的な領域や開発者として必要となる知識を取得する。

□ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	実力測定	模擬試験形式で現時点での実力と勉強量がどれくらい必要かを測る
2	テクノロジ系①	基礎理論、アルゴリズム、ソフトウェア、ハードウェア、UI、データベース、セキュリティ、ネットワーク
3	テクノロジ系②	
4	テクノロジ系③	
5	テクノロジ系④	
6	マネジメント系①	システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
7	ストラテジ系①	システム戦略、経営戦略、企業法務
8	ストラテジ系②	
9	科目B対策①	プログラミング全般、プログラム処理
10	科目B対策①	データ構造およびアルゴリズム、数理やデータサイエンス、AI
11	科目B対策③	情報セキュリティ
12	科目B演習①	過去問を通した演習を実施
13	科目B演習②	
14	模擬試験	
15	後期考査	

□ 到達目標

基本情報技術者試験への合格

□ 成績評価の方法・基準

授業への出席・態度、考查点数、資格取得、やる気の総合点で判定

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	ビジネスコミュニケーションⅡ			キャリアサポートセンター		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

人事担当としての実務経験を活かし、企業が重視する評価ポイントを的確に伝えらるとともに、面接対応や履歴書の作成について、具体的な成功事例や改善点を交えながら丁寧に指導します。自己理解を深め、戦略的な就職活動につなげる授業を展開します。

☐ 授業科目の概要

1年前期「ビジネスコミュニケーションⅠ」の流れを引き継ぎ、業界EXPOの準備を通して就職活動に必要な知識を身につけていきます。業界EXPO後はリフレクションを通して個人の課題を見つけ、最終的には就職活動を一人でも行える能力を身に付けます。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	意識づけ（就職活動、業界EXPO）	就職活動（社会保険、キャリア形成、準備）、業界EXPO（5つの人間力など）、就職活動スケジュール確認など
2	就職活動のスーツやメイクと就職活動の軸	就職活動を行うためのスーツやメイクについてレクチャー、後半は学生個人の就職活動の軸について考える ※個別面談
3	書類作成①	志望動機と自己PRの作成手順の説明し、実際に作成してみる ※個別面談
4	書類作成②	スーツ登校させ事前チェックを行う、参加票の清書書きを行う、前回作成した自己PR
5	業界EXPO準備①	（履歴書自己PR欄＝業界EXPO参加票）を添削し、参加票に清書書きを行う、企業シート作成の説明
6	業界EXPO準備②	企業研究シートの作成、業界EXPOでの質問時のマナーを説明し質問を考える、業界EXPO当日の注意事項などを学生パンフを使い確認していく
7	業界EXPO振り返り	業界EXPOの振り返り（リフレクション）を行い、後半は就職活動マナー（メール、電話、封筒、送り状、お礼状、企業説明会参加のマナーなど）を学ぶ
8	書類作成③	志望動機と自己PR以外の履歴書の書き方をレクチャーする ※個別面談
9	就職活動対策①	エントリーシートの書き方と活動の流れをしっかりと理解する
10	就職活動対策②	面接対策①（基本5項目の書き方の説明と作成）
11	就職活動対策③	面接対策②（実践：面接官と受験者を実際に体験してみる）
12	就職活動対策④	グループディスカッション（GD）対策、求人票の見方、今後の就職活動スケジュールの確認など
13	スタログ説明	今年度から導入した就職活動アプリ「スタログ」の使用説明を行う※業者作成の動画
14	期末考查の準備	就職試験でよく聞かれる5項目について考え完成させる ※個別面談
15	期末考查	就職試験基本5項目をそれぞれ指定の字数で書く

☐ 到達目標

就職活動への意識を高め、活動のノウハウを身に付ける。

☐ 成績評価の方法・基準

試験30% 課題10% 出席状況・授業態度60%

日頃の授業態度と考查の結果を総合的に評価する。

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	アルゴリズムⅡ		高野 ひとみ		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

プログラムの基礎となるアルゴリズムを理解し、問題解決と効率の良い疑似言語の演習を行う。

「データ構造」および「アルゴリズム」を学習することで、プログラミング能力を高める。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	疑似言語の基本-1	疑似言語の記述方法
2	疑似言語の基本-2	フローチャートから疑似言語を記述する
3	疑似言語の基本-3	宣言部と処理部についての記述と副プログラムの記述
4	疑似言語-1	順次処理の疑似言語作成
5	疑似言語-2	分岐処理の疑似言語理解
6	疑似言語-3	繰返し処理の疑似言語理解
7	データ構造と疑似言語-1	単純選択法による疑似言語とプログラム
8	データ構造と疑似言語-2	単純交換法による疑似言語とプログラム
9	データ構造と疑似言語-3	単純挿入法による疑似言語とプログラム
10	データ構造と疑似言語-4	クイックソートによる疑似言語とプログラム
11	確認試験	疑似言語とプログラムの確認
12	素数を求めるアルゴリズム	エラトステネスのふるいについて学ぶ
13	最大公約数を求めるアルゴリズム	ユークリッドの互除法のイメージをつかむ
14	模擬試験	疑似言語とプログラムのまとめ
15	後期考査	

☐ 到達目標

ソートアルゴリズムの理解とプログラミングができる

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		PythonプログラミングⅡ		高野 ひとみ		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

Python言語のプログラミング基礎を身につけるために、Python言語の特徴とデータ構造を理解する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	Pythonで扱うデータプログラム1	制御文と各データの演習問題 1
2	Pythonで扱うデータプログラム2	制御文と各データの演習問題 2
3	関数の作成 1	プログラム構成―1（関数・モジュールの演習）
4	関数の作成 2	プログラム構成―2（関数・モジュールの演習）
5	関数の作成 3	プログラム構成―3（関数・モジュールの演習）
6	オブジェクト指向プログラム①	クラスの理解と利用方法
7	オブジェクト指向プログラム②	クラス変数とクラスメソッドの利用プログラム演習 1
8	オブジェクト指向プログラム③	クラス変数とクラスメソッドの利用プログラム演習 2
9	オブジェクト指向プログラム④	クラス変数とクラスメソッドの利用プログラム演習 3
10	オブジェクト指向プログラム⑤	モジュールパッケージの利用プログラム演習
11	オブジェクト指向プログラム⑥	いろいろなモジュールを使用したプログラム演習
12	オブジェクト指向プログラム⑦	「継承」の概念とプログラム演習 1
13	オブジェクト指向プログラム⑧	「継承」の概念とプログラム演習 2
14	オブジェクト指向プログラム⑨	「継承」の概念とプログラム演習 3
15	後期考査	

☐ 到達目標

Python言語の特徴を理解し、プログラミングできる。

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	ビジネスデータ分析			美崎 弘子	○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

大手システム開発会社より独立後、IT/AIプロジェクトの全体に関わりながら、エンジニア育成を行っています。

☐ 授業科目の概要

自分で考えるテーマを元に、データの収集・前処理・分析・視覚化を行い、その内容や課題解決を行ったプロセスに関する発表を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	データベース設計（1）	Webアプリケーションを開発するのに必要な、データベース設計について学習する ER図の作成や、具体的なアプリを元に設計を行う
2	データベース設計（2）	データベース設計、システム設計の手法を学習し、データがどのようなテーブル構成で格納されるのか、実際に作ってみる
3	データベース設計（3）	データベース設計、システム設計の手法を学習し、データがどのようなテーブル構成で格納されるのか、実際に作ってみる
4	Webアクセス解析（1）	Webサイトやアプリのアクセス解析を行うにあたり、ツールや代表的な指標について学習する
5	Webアクセス解析（2）	実際に作ったサイトを元に、設定を行い解析を行う
6	データ分析プロジェクト（1）	テーマを元に、仮説立案し、データの当たりをつけ、データを収集し、前処理を行い、分析作業を行い、検証・評価を行い・視覚化やサマリーを行い、課題および解決策を導く・・・という一連の流れについて学習する
7	データ分析プロジェクト（2）	テーマを元に、仮説立案し、データの当たりをつけ、データを収集し、前処理を行い、分析作業を行い、検証・評価を行い・視覚化やサマリーを行い、課題および解決策を導く・・・という一連の流れについて学習する
8	データ分析プロジェクト（3）	テーマを元に、仮説立案し、データの当たりをつけ、データを収集し、前処理を行い、分析作業を行い、検証・評価を行い・視覚化やサマリーを行い、課題および解決策を導く・・・という一連の流れについて学習する
9	マーケティングデータ分析（1）	マーケティング分析を行うための指標や、手順について学習する
10	マーケティングデータ分析（2）	売上データ、アンケートデータ、アプリログ、人事データ、などのデータを、様々なマーケティング手法で分析を行う
11	マーケティングデータ分析（3）	売上データ、アンケートデータ、アプリログ、人事データ、などのデータを、様々なマーケティング手法で分析を行う
12	マーケティングデータ分析（4）	売上データ、アンケートデータ、アプリログ、人事データ、などのデータを、様々なマーケティング手法で分析を行う
13	成果発表・準備	1～12回で行ったテーマの中から自分で選択し、PowerPointで発表資料を作成する
14	成果発表・準備	PowerPointで発表資料を作成する 発表方法の説明、リハーサル
15	成果発表	発表、フィードバック

☐ 到達目標

データ分析プロジェクトの一連の流れを体験し、
自分の成果を発表する。

☐ 成績評価の方法・基準

毎回の提出物の有無・内容によって、評価する。

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		JavaプログラミングⅡ		高野 ひとみ		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当講師はIT企業に5年間勤務し、システム開発に携わった実績を踏まえ、SEやプログラマ養成に向けた講義を行う。

☐ 授業科目の概要

Java言語で開発する為のクラス設計を考える事が出来るように、クラスの宣言とインスタンスの生成について学ぶ。

オブジェクト指向言語であるJAVA言語を使いプログラミングが出来る。（クラス宣言とクラスを参照するプログラミング）

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	クラスメソッド定義	メソッド定義と利用の例題
2	メソッドの利用 1	引数・戻り値の演習
3	メソッドの利用 2	メソッド定義とメソッドを利用した演習
4	オブジェクト指向の復習1	オブジェクト指向について
5	オブジェクト指向の復習2	クラスとインスタンスの関係
6	オブジェクト指向の復習 3	クラスの定義と利用する演習
7	継承1	継承の概念を理解しスーパークラスとサブクラスの演習
8	継承2	コンストラクタとポリモーフィズムの演習
9	継承 3	継承の例題プログラムの演習
10	抽象クラス1	修飾子アクセス制御の演習
11	抽象クラス 2	実態のない抽象メソッドの演習
12	インタフェース 1	インタフェースの使い方
13	インタフェース 2	インタフェースの活用
14	例外処理	例外処理プログラムの演習
15	前期考査	

☐ 到達目標

クラス設計からプログラミングが出来る

☐ 成績評価の方法・基準

試験50% 課題30% 出席状況・授業態度20%

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名		担当講師名		実務経験	
	データベース構築		井田和義		○	
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考	
基本授業	講義・演習		4	4×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ	

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当教員は、IT企業として創業20年となり、データベースを利用したシステム開発実務経験に基づいて、エンジニア養成に向けた授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

◇データベース設計の考え方を理解し、オリジナルデータベース構築を学ぶ。また、SQL内でのプログラミングを学ぶ。

◎既存ルールを理解し、Web アプリに機能追加する技術を学ぶ。PHPやMariaDBなどを利用する。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	◇オリエンテーション／ストアドルーチン① ◎2Dグラフィック①	◇ストアドプロシージャ（基本） ◇ストアドプロシージャ（変数） ◎（enchant.js）HtmlとJavascriptを利用したプログラムに触れてみよう！
2	◇ストアドルーチン② ◎2Dグラフィック②	◇ストアドプロシージャ（if文） ◇ストアドプロシージャ（loop文） ◎（enchant.js）MAPセツトは変更せずにプログラムルールに沿って画面を変更できるかな？
3	◇ストアドルーチン③ ◎2Dグラフィック③	◇ストアドプロシージャ（カーソル文） ◎（enchant.js）◎MAPセツトを変更して、課題の画面に変更できるかな？
4	◇ストアドルーチン④ ◎2Dグラフィック④	◇ストアドファンクション ◎（enchant.js）◎MAPセツトを変更して、課題の画面に変更できるかな？
5	◇データベース設計①DFD ◎DBアクセス（SELECT）	◇業務プロセス ◇データフローダイアグラム（データフロー図）の書き方を学ぶ ◇LucidChartの登録確認 ◎ ページ間の値受け渡し（POSTとGET） ◎ mariaDBを利用して、お知らせ一覧を表示してみよう。
6	◇データベース設計②E-R図 ◎DBアクセス（INSERT）	◇E-R図とは？ ◇リレーションシップ表記 ◇LucidChartでのE-R図の作成 ◎mariaDBを利用して、お知らせデータを新規登録してみよう。
7	◇データベース設計③正規化 ◎DBアクセス（UPDATE）	◇正規化とは？ ◇非正規化→第1正規化→第2正規化→第3正規化 ◇正規化を行っている ◎mariaDBのお知らせデータ編集（更新） ◇お知らせ一覧ページから削除（論理削除）してみよう。
8	◇データベース設計④設計 ◎PHPでファイルアップロード	◇データベース設計のフローチャートの書き方を学ぶ ◇データベース設計を行っている。 ◇データベースを実際に構築している。 ◎ファイルアップロード 単体 / 複数 / フォルダ名振り分け / ランダムファイル名
9	◇データベース構築基礎① ◎管理画面作成①	◇講師からのテーマをもとにデータフローダイアグラムを作成する。 ◇テーブル設計を行う ◎レスポンス対応している管理画面テンプレートにプログラムを組み込もう ◎サインアップ／サインイン機能
10	◇データベース構築基礎② ◎管理画面作成②	◇講師が与えたテーマをもとにデータフローダイアグラムを作成する。 ◇データベース設計を行う。 ◇データベースを実際に構築している。 ト文を作成する。 ◎レスポンス対応している管理画面にユーザー一覧／追加／更新／削除機能を実装しよう
11	◇アプリからのDBアクセス ◎管理画面作成③	◇プログラムからデータベースへアクセスするプログラムを学ぶ。 ◎レスポンス対応している管理画面に講師が用意したテーマで機能を組み込む
12	◇後期課題制作①	◇後期課題の個人自由テーマをもとにデータフローダイアグラムを作成する。 ◎レスポンス対応している管理画面に講師が用意したテーマで機能を組み込む
13	◇後期課題制作②	◇テーブルレイアウトの作成（E-R図も併せて） ◎レスポンス対応している管理画面にて、自分で考えたテーマで機能を組み込む
14	◇後期課題制作③	◇テーブルレイアウトの作成（E-R図も併せて） ◇データの登録および後期考査の準備
15	◇後期考査テスト	後期考査

☐ 到達目標

◇自分で考えたデータベースを構築し、利用することができる。

☐ 成績評価の方法・基準

①期末テスト（100点）試験日に試験

②欠席3回（－5点）、欠席4回（－10点）、欠席5回（－15点）

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		AIリテラシーⅡ		遠藤 優一		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

担当教員は銀行、中堅企業での長年の現場経験を基に、JDLA主催のAIハッカソンに参戦したり、大学ではデータから価値を創出し、ビジネス課題に答え出す「AIプロデューサー」を志す学生向けの講師を務めている。こうした実務経験を活かしたAIリテラシーの授業を展開する。

☐ 授業科目の概要

最新のAI開発動向に触れながら、AIの光と影、ヒトとAIの境界を紐解き、AIとの共存時代のヒトの役割を考察。

AI共創時代におけるデジタルリテラシーを経営学の理論等も交えながら読み解く。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	オリエン、AIを巡る最近のトピック	フィジカルAI、世界モデル等の最新トレンド
2	AIを巡る二つの見方、光と影	AGI、脅威論と制御可能論、
3	世界の大転換期を牽引するコア技術AI	今の日本の立ち位置、シリコンバレーの世界観、なぜAIがコア技術か
4	AIの基礎	AIの定義、歴史観、基礎概念
5	AIが遭遇した問題	“シンボルグランディング問題”を、認知科学/言語心理学の視座から深堀り
6	AIの光と影、人間中心のAI	生成AI使用による影響（個人レベルと組織レベル）、“人間中心”の意味合いの変遷
7	自動車とAI（1/2）	自動運転のレベル分けとAIの仕組み、法制度とインフラ
8	自動車とAI（2/2）	自動運転のAIが抱える問題、自動運転の社会的受容性を巡る動き
9	職場とAI（1/2）	DX、5W1H、AI企画の視座、タイプ別AI企画（CX変革型/職場改善型）
10	職場とAI（2/2）	タイプ別AI企画（職場改善型）
11	知的財産権とAI	AIと法令の全体像、著作権、特許権、不正競争の防止
12	個人情報とAI	個人情報保護法が適用される場面、個人情報等に関して生じる常識的な義務、匿名加工情報/仮名加工情報の制度趣旨や最基本事項他
13	AIリスク	生成AI時代のAIリスクの根本要因、AIリスクを構成する2つのリスク他
14	総括（1/2）	AI共創時代のデジタルリテラシー
15	総括（2/2）、前期考査	AI共創時代のデジタルリテラシー、後期考査

☐ 到達目標

AIを相棒に自分だけの“問い”を社会へ放つ

☐ 成績評価の方法・基準

出欠状況と期末考査で総合判断

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード		授業科目名		担当講師名		実務経験
		A Iプロデュース		美崎 弘子		○
授業の種類		授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕		単位数	時限×回数	備考
基本授業		講義・演習		2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

大手システム開発会社より独立後、IT/AIプロジェクトの全体に関わりながら、エンジニア育成を行っています。

☐ 授業科目の概要

AI技術を組み込んだアプリケーションを開発し、その内容や課題解決を行ったプロセスに関する発表を行う。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	AIサービス・AIアプリの概要	授業の概要・ゴールについて説明し、使用する環境やツールの準備を行う
2	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
3	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
4	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
5	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
6	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
7	AIアプリ開発	音声/画像/自然言語 の認識や生成を行うことができる、AIアプリ開発の手法を学習する
8	成果発表・準備	企画の方法について説明するので、企画資料を作成する
9	成果発表・準備	企画内容のレビューを行う →ブラッシュアップする
10	成果発表・準備	AIアプリの開発
11	成果発表・準備	AIアプリの開発
12	成果発表・準備	AIアプリの開発、テスト
13	成果発表・準備	PowerPointで発表資料を作成する
14	成果発表・準備	PowerPointで発表資料を作成する 発表方法の説明、リハーサル
15	成果発表	発表、フィードバック

☐ 到達目標

生成AIツールを活用し、AIアプリを組み込んだシステムを開発できるようになる。

☐ 成績評価の方法・基準

最終日の発表の有無とその内容で評価する。

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	データサイエンスⅡ			福田 徹		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

Study-AI株式会社にて日本ディープラーニング協会のE資格向け認定講座提供。その他複数の会社の経営者。大学教授として大学でAIの講義を実施。上場企業の社外役員、上場企業へのコンサルティングも行っている。

☐ 授業科目の概要

データを読み解くために必要なデータサイエンスの知識を中心に、実践的なデータの見方やまとめ方、分析方法などを習得する。

データサイエンスをツールとして使えるようにすることで、社会に出て必要なデータサイエンスの基礎を学ぶ授業内容とする。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	授業ガイダンス	データサイエンスについて。授業の進め方。教科書の紹介。
2	データの構造化	データアナリティクスと問題解決
3	データの構造化	構造化データと非構造化データ
4	重点志向とパレート分析	パレート分析の手順とパレート表
5	重点志向とパレート分析	層別パレート分析
6	クロス集計分析	クロス集計表
7	クロス集計分析	連関係数とx2検定
8	分布構造の把握と基本統計量	分布の把握、基本統計量
9	分布構造の把握と基本統計量	グラフと統計量、変動係数と偏差値
10	相関・予測と回帰分析	相関分析
11	相関・予測と回帰分析	回帰分析
12	確率に基づく判断	二項分布を用いた分析、正規分布を用いた分析
13	統計的な推測	推定に伴う誤差、区間推定、仮説検定
14	統計的な推測	時系列・テキストデータの分析、シミュレーション、乱数
15	後期試験	試験の実施

☐ 到達目標

さまざまなデータの可視化、分析ができる

☐ 成績評価の方法・基準

課題と出席状況、授業への取り組み方で評価する

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名		実務経験
	AWS			赤沼 大		○
授業の種類	授業の方法〔講義・演習／実験・実習・実技〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2×15	2時限＝90分＝1コマ 4時限＝120分＝2コマ

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

IT業界で7年程の実務経験があり、開発・ネットワーク・セキュリティ・AI・DX等幅広く行なっている。

プロジェクトマネジメントやチームマネジメント、経営にも携わる経験を有している。

☐ 授業科目の概要

AWS Academy（Web版）を用いた授業を行う。全般的な機能を体系的に学び、AWS認定資格の取得を目指す。

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	AWSとAWS Academyの説明	モジュール1：各国のクラウドとして利用されているAWSとは何か、どうことができるのか、本授業で学ぶことがどう生かせるのかを説明
2	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習①	モジュール2：AWSコンソールと請求関連
3	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール3：グローバルインフラストラクチャの概念と仕組み
4	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習③	モジュール4：クラウドセキュリティ
5	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール4：クラウドセキュリティ モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信
6	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習①	モジュール5：ネットワークとコンテンツ配信
7	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール6：コンピューティング
8	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習①	モジュール6：コンピューティング
9	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール6：コンピューティング モジュール7：ストレージ
10	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習①	モジュール7：ストレージ
11	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール8：データベース
12	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習①	モジュール8：データベース モジュール9：クラウドアーキテクチャ
13	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール9：クラウドアーキテクチャ
14	AWS Academy Cloud Foundationsを用いた学習②	モジュール10：スケーリングとモニタリング
15	後期考査	

☐ 到達目標

AWS認定クラウドプラクティショナー試験の合格

☐ 成績評価の方法・基準

学習コンテンツの完遂、試験の合格

2026年度	後期	AI・ITビジネス学科	1年	データサイエンス専攻		
授業コード	授業科目名			担当講師名	実務経験	
	スポーツ統計学Ⅱ			金森 保智	○	
授業の種類	授業の方法〔講義／演習／実験・実習実技／その他（概要記載）〕			単位数	時限×回数	備考
基本授業	講義・演習			2	2X15	週1コマ＝2時限×15週 週2コマ＝4時限×15週

2026年度生から：【単位数】「講義・演習」は1コマの授業で2単位／「実験・実習・実技」は1コマの授業で1単位

☐ 実務経験のある教員による授業であることを示す記述（上記講師名欄の右に「○」）

コンサルタントとしての約10年を含む約30年に渡るビジネスパーソンとしてのデータ・統計の活用実践、指導実績を土台に講義を設計、実施

☐ 授業科目の概要

スポーツにおけるデータ活用で得られる効果から、将来に渡って利用できる適切な目標～計画～行動～測定・評価～見直し

☐ 授業の計画

週	項目	授業概要
1	スポーツを通じてあなたが獲得したものは？	自分の強みは何？～質問の仕方で変わる思考の深まり／（課題）スポーツを通じて獲得したものから考える自分の「強み」／スポーツに真剣に取り組んだ人の強み～経営者や人事担当者の視点
2	データを使って強みを表現する～スポーツからの学びの最大化	（課題）自分の強みは本当に強みなのか？／強みを強みと言うためには？／「どうしたら」より自分の強みを客観的に表現できるか？／強みをつくる・磨く1つの方法
3	データを使った行動への変換～数値と行動の変換作業	（課題）食事の目的を整理する／適切な食事をしてもらうには？～食事における目標／目的と目標の関係／食事における目的と目標～定性的・定量的／どうしたら目標は達成できる？／行動を促す工夫
4	データを使った動機づけの効果～動機づけ理論	すべての目標は達成できたか？／（課題）成功した事例と失敗した事例を比較し、共通点を抽出する／成功事例での工夫を洗い出す／動機づけ理論／行動の習慣化に必要な時間とポイント／目標の重要性
5	目標設定の視点～目標設定とチャートの活用法	目標設定の1つの方法～フォーマット（チャート）の活用／フォーマットの活用例～大谷翔平選手の高1時点での目標と利用されたフォーマット／フォーマットを活用する利点／フォーマットの活用法とポイント
6	実際の目標設定～チャートの検討・作成	（課題）フォーマット（チャート）を使って将来の目標を検討・アウトプットする
7	状態目標と数値目標～到達状況を評価するには？	絵に描いた餅という問題／目標の達成に「必要なこと」／状態目標と数値目標～その必要性和関係性／アウトプットしたチャートの良し悪しを評価する視点／（課題）アウトプットしたチャートの自己評価は？
8	目標の計画～ブラッシュアップから始まる	「目的・目標の見直し」と「計画・行動の見直し」との違い／（課題）アウトプットした将来の目標をブラッシュアップする～計画・行動を見直す前に
9	スポーツビジネスとデータ活用	（課題）スポーツに関わる①仕事を洗い出す②企業を洗い出す／スポーツに関わるビジネスを整理する／スポーツに関わるビジネスの表舞台と裏部隊／なぜ、IT企業は球団親会社になるのか？①
10	スポーツの特徴～スポーツビジネスとデータ活用	（課題）さまざまなスポーツの特徴を洗い出す②整理する／スポーツの特徴から考えるデータの活用場面／スポーツに関わるビジネスではどのようなデータが利用されるか？／なぜ、IT企業は球団親会社になるのか？②
11	マネーボールの世界観～資金の乏しいチームの選択	資金が潤沢な球団と資金の乏しい球団～MLBを例に／（課題）資金の潤沢な球団のオーナーだったら？・資金の乏しい球団のオーナーだったら？／資金の乏しい球団が実際にに行ったこと／MLBの今
12	MLBの狙いを考える～日本人選手の獲得とビジネス	（課題）MLBの日本人選手はどの程度いるか？／MLBの日本人選手は増えているのか？／なぜ、MLBの開幕戦がアジアで行われるのか？／球団経営はビジネス
13	ビジネスとスポーツの共通点	スポーツに真剣に取り組んだ人を企業はどう見ているか？／ビジネスとスポーツの共通点を考える／（課題）ビジネスとスポーツの共通点を①抽出する②整理する
14	ビジネスにおけるデータ活用	将来に渡って納得度の高い評価を得るために～ビジネスにおける評価とデータ活用／PDCAとは？／過去13回のオーバーラップ
15	期末試験	

☐ 到達目標

「スポーツにおける目標～計画～行動～測定・評価～見直し」を起点に、ビジネスにおいて成果の上がる意思決定の手法とデータ活用のポイントを押さえ、将来的に利用できる状態

☐ 成績評価の方法・基準

期末試験結果（大きく以下①～⑤の要素で評価）①受験、②結論、③学びの活用、④論理、⑤表現

※一定数以上の出席を期末試験の受験条件とする